

学校教育に携わる M.M.さんからのコメント：

ゆとり教育は基礎基本ができてなくてはなりたないものと考えています。成長していく子どもたちにあらゆる可能性があります、教えなければいけない基礎は昔と同じで今の世の中も山ほどあります。それを省いてゆとりはないのかな。根本に基礎基本を定着させなければ社会では生きて行けないのではないのかな。

ゆとり教育で学習時間の格差が増えたような気がします。もともともっている能力差は別として、ゆとり教育で、削減された授業時間に塾へ通い休みの日は昼食も夕食も弁当を食べて勉強する子と、家で勉強する環境が伴わない子との学習時間の差がドンドン広がっていつている。そんな気がしています。学習の差をつくらないように教師は働きかけなければいけないと思いますが…。

そして、学校は学習はもちろんですが、躰においても今まで家で行っていたことを学校で教えなければいけないことが増えたように感じます。

最近ではあまりゆとりゆとりと言わなくなっていて、教えなければいけないところは教えこんでいくというふうになっているように思います。もしかしたら個人差があるのかもしれないね。

民俗学や人類学を研究されている K.T.さんからのコメント：

土台がしっかりしていれば、その上には塔だって何だって建つ、土台がもろいから崩れるんだということを思い出しました。薬師寺再建の西岡棟梁の言葉かな・・・どうだったかな・・・、「基礎があれば、どっちに振れても大丈夫。それは建築も人も同じこと」という内容だったと思います。それを「芯があれば、世界観がどっちに振れても大丈夫」と受け止めてました。重要なのは後付けの世界観ではなくて、「自分でどこまで考えられるか」の元になる部分じゃないかなとおもいます。

K.N. そうですね、学校で足りない分を塾などで補うとなると、よりゆとりがなくなりますね。そのうえ、ゆとりでの躰も先生方に頼られると、先生方はより大変になるので、授業内容が疎かになったり、自分にゆとりをとということで、児童たちにクラスをまかせてしまったり。。悪循環を生みますね。また、基礎がしっかりしていれば倒れにくい。倒れやすいと周りに迷惑がかかるし。倒れてしまったら大変です。M.M.さん、K.T.さん御意見ありがとうございました！

おまけです。H.S.さんからのお勧めサイト。 <http://www.kanken.or.jp/henkan/4happyou.html>

巢極木似一手馬守。蟻蛾と鶉！